

紙推進協ニュース 平成30年10月23日 No.96

紙製容器包装リサイクル推進協議会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-21 新虎ノ門実業会館 8階
TEL : 03-3501-6191 ホームページ : <http://www.kami-suisinkyo.org/>
FAX : 03-3501-0203 Eメール : p@kami-suisinkyo.org

本紙推進協ニュース No. 96 では、①平成31年度再商品化委託申し込み用算定係数②平成31年度再商品化実施委託単価及び平成30年度抛出委託単価③創立20周年会員セミナー報告④委員会活動報告⑤3R推進団体連絡会活動報告⑥プラスチック資源循環戦略小委員会についてお知らせ致します。

*消費税抜きにしています。消費税増税対応についても添付致します。

① 算定係数

9月27日～10月11日の産業構造審議会 産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会 容器包装リサイクルワーキンググループ（書面審議）にて、平成30年度の再商品化義務量の算定に係る量、比率等の数値が審議、承認されたのを受け、当推進協議会で試算しました平成31年度再商品化委託申し込み用算定係数をお知らせ致します。資料1 再商品化義務量に用いる算定係数（平成31年度）をご参照下さい。

② 実施委託単価及び抛出委託単価

10月16、18日に開かれました、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会（以下指定法人という）の紙容器事業委員会、並びに総務企画委員会で、平成31年度再商品化実施委託単価及び抛出金単価が了承されました。

各素材別の平成31年度の委託単価、並びに平成30年度抛出金単価は下記の表1の通りです。紙製容器包装の平成31年度再商品化実施委託単価は**12,000円/トン**、平成30年度抛出金単価は**100円**となっています。

表1 再商品化実施委託単価、抛出委託単価（共に消費税抜き）

		H31年度再商品化実施委託単価	H30年度抛出委託単価
紙製容器包装		12,000円/トン	100円/トン
ガラス ビン	無色	4,300円/トン	0円/トン
	茶色	6,000円/トン	0円/トン
	その他	11,600円/トン	0円/トン
PETボトル		2,000円/トン	0円/トン
プラ製容器包装		46,000円/トン	0円/トン

再商品化義務量に係る算定係数、再商品化実施委託単価、抛出委託単価は、**暫定値**です。

算定係数及び単価に変更があった場合は、速やかに連絡致します。

上記の抛出金委託単価を用いて、平成30年度抛出金は表2のように見込まれています。

表2 平成30年度再商品化合理化抛出金見込み額（消費税抜き）

		H30年度合理化抛出金見込み額	参) H29年度抛出金
紙		1,008,200円	(1,507,700円)
ガラス びん	無色	0円	(5,494,200円)
	茶色	0円	(5,893,000円)
	その他	0円	(0円)
PETボトル		0円	(23,704,700円)
プラスチック		0円	(0円)

《平成 31 年度紙製容器包装再商品化実施委託単価の計算方法》

$$\text{実施委託単価} = \frac{\text{市町村からの引取見込量} \times \text{再商品化事業者見込委託単価} + \text{協会経費}}{\text{特定事業者等からの再商品化委託申込見込量}}$$

◇上記算式に以下数字を入れ平成 31 年度再商品化委託単価を求めると **12,000 円/t** となります。

1. 上記算式分子の市町村からの引取見込量は、本年 6～7 月に実施した平成 31 年度市町村引き渡し量調査結果 21,276t を基に **22,000t** とする。
中国における廃棄物の輸入規制の動きの影響は、落ち着きを取り戻していることから、逆有償での落札が予測される市町村引取り見込量 = 22,000 t × 20% = **4,400t** となります。
2. 上記算式分子の再商品化事業者見込委託単価（逆有償分）は、平成 30 年度の逆有償落札平均単価が 6,209 円/ト（消費税抜き）であったことを勘案し、**6,500 円/t（消費税抜き）** と見込む。
3. 上記算式分子の協会経費は、指定法人平成 31 年度予算における紙容器事業部負担分より **350,248 千円（消費税抜き）** とする。
4. 上記算式の分母の特定事業者等からの再商品化委託申込見込量は、特定事業者からの委託申込見込量（＝再商品化義務総量＝31,680t）＋市町村からの委託申込見込量（引取り見込量 22,000t × 市町村負担率 0.01）で計算し、**31,900t** とする。

以上から

平成 31 年度再商品化実施委託単価（消費税抜き）

$$= (4,400t \times 6,500 \text{ 円/t} + 350,248 \text{ 千円}) \div 31,900t = 11,876 \text{ 円/t} \approx \underline{\underline{12,000 \text{ 円/t}}}$$

《平成 30 年度紙製容器包装抛出委託単価の計算方法》

$$\text{抛出委託単価} = \frac{\text{平成 30 年度分として見込まれる再商品化合理化抛出金 (A)}}{\text{平成 30 年度分として見込まれる特定事業者からの再商品化委託申込の総量 (B)}}$$

◇上記算式に以下数字を入れて求めた結果より、平成 30 年度抛出委託単価は **100 円/t** となります。

1. 再商品化合理化抛出金 = (想定額－「現に要した費用」の見込み金額) × 1/2

① 想定額 = 想定単価 × 想定量

・ 想定単価は直近 3 年間（平成 26－28 年度）の再商品化実績単価の平均値 **918 円/t**

・ 想定量は各市町村から日本容器包装リサイクル協会への平成 30 年度引き渡し申込量
21,613.801t

以上から 想定額は 918 円/t × **21,613.801t** = **19,841,469 円**

② 「現に要した費用」の見込み金額

平成 30 年度の 4 月から 8 月までの 5 か月間に要した特定事業者負担分の再商品化費用

7,427 千円から 1 年間の再商品化に要する費用を **17,825 千円** と見込む。

以上①②より 再商品化合理化抛出金 (①－②) × 1/2 = **1,008,235 円 (A)**

2. 平成 30 年度分として見込まれる特定事業者からの再商品化委託申し込み量の総量

・ 再商品化委託申し込み総量 **34,300 t (B)**

以上から 平成 30 年度抛出委託単価 (円/t) (消費税抜き) = (A) / (B) = 29 円/t ≈ **100 円/t**

*平成 31 年度再商品化実施委託金及び平成 30 年度抛出委託金に対し、一括して指定法人より請求がある予定です。

*別添資料と致しまして、指定法人の平成 30 年度第 2 回紙容器事業委員会、第 2 回総務企画委員会で配布されました資料の抜粋を添付致します。紙製容器包装の再商品化状況、並びに実施委託単価、抛出委託単価に関する詳しい説明が書かれていますのでご覧いただきたいと思います。

③ 創立20周年会員セミナー報告

本年9月14日に、三省を招いて当推進協議会の「創立20周年会員セミナー」を開催しました。容器包装リサイクル制度見直しの動向や課題について、経済産業省資源循環経済課（旧リサイクル推進課）からは福地 真美 課長に、環境省リサイクル推進室からは小笠原 靖 室長に、農林水産省食品産業環境対策室からは矢部 努 課長補佐に、ご講演をいただきました。野島 昌浩 室長には、懇親会よりご参加いただきました。また、当推進協議会からは、「自主行動計画 2020」と紙製容器包装の課題について説明を行いました。紙製容器包装の軽量化実態調査（原単位の検討）についても報告させていただきました。

合計67名のご参加をいただき、会員セミナー終了後、三省の皆様を含めて、懇親会を開かさせていただきました。

※ 環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室の小笠原 靖 室長は、10/1付で内閣官房副長官補室 内閣参事官に異動され、後任に冨安 健一郎室長が着任されました。

④ 委員会活動報告

＜3R改善事例集第12版 創立20周年記念号＞（総務委員会）

昨年度発行した「3R改善事例集第11版」は、実績を上げている各社の取組み・成果を広範囲でまとめ紹介することができました。3R改善事例集は、関係する団体・事業者だけではなく、各省庁・市町村や市民団体との交流でも活用し、事業者の取組みとして広報しています。今年度は平成30年度の改善事例に加え、創立20周年の特別企画として「紙製容器包装20年の歩み」、容器包装3Rのための自主行動計画をまとめ第12版創立20周年記念号を12月に発行予定です。

＜回収量調査＞（総務委員会）

今年度も行政回収及び集団回収について、人口10万人規模以上の全国295市区に紙製容器包装の回収量に係るアンケート調査を実施しました。

＜組成分析調査＞（技術委員会）

行政収集「紙製容器包装」の回収を実施している帯広市、行政収集「古紙」の回収を実施している出雲市の組成分析を実施し、紙製容器包装の構成比を調査しました。関東圏主体から、地方にも範囲を広げ調査を行っています。

⑤ 3R推進団体連絡会活動報告

＜容器包装3R推進フォーラム＞

「これからの資源循環と容器包装」をテーマに、10月31日に座・高円寺にて第13回 容器包装3R推進フォーラムを開催します。神戸大学大学院 経済学研究科・経済学部 教授 石川雅紀先生の基調講演、及び三省（経産、環境、農水）からの報告をいただいた後、当推進協議会専務理事の川村が幹事長として、3R推進団体連絡会の活動報告を行います。自治体（杉並区）、事業者、NPOにて事例報告の後、パネルディスカッションを予定しております。

会員の皆様、是非、参加の御申込をよろしく願いいたします。

<http://www.dynax-eco.com/3rforum/>

＜容器包装交流セミナー＞

容器包装の3Rに関する市民・自治体・事業者との意見交換会として、「容器包装交流セミナー」を7月31日に山形市で、9月28日に金沢市で開催しました。

＜3R推進全国大会＞

環境省の主催で、10月12日に富山県において開催された「第13回3R推進全国大会」及び13・14日に開催された「とやま環境フェア2018」に展示しました。

＜エコプロ 2018＞

12月6日～8日 東京ビッグサイトにて第20回エコプロ2018～SDGs時代の環境と社会、そして未来へに出展致します。今年度も容リ協会の小間に4素材（紙、プラ、PET、ガラス）が参加し、当推進協議会も容リ協会小間に展示致します。また、3R推進団体連絡会が8団体の共通小間にてクイズラリーを企画します。

＜自主行動計画 2020 フォローアップ報告会＞

12月12日 経団連会館にて自主行動計画2020の2017年度、2年目の取り組み成果を幹事長として発表します。

⑥ プラスチック資源循環戦略小委員会（第1～3回）

小委員会において、第4次循環型社会形成推進基本計画を踏まえ、「海洋プラスチック憲章」に掲げられた事項や数値目標も含めプラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略の在り方について、検討することとなった。

＜第1回：8月17日＞ 論点に沿った自由討議

環境省の用意したプラスチック資源循環を巡る主な論点として、リデュース・リユース、回収・リサイクル、再生材・再生可能資源の利用、海洋プラスチック対策、国際展開、海洋プラスチック憲章、効果について自由討議が行われた。レジ袋の有料化、容リ法対象の製品プラへの拡大、再生材のマーケット拡大、バイオマスプラの活用等、活発な討議が行われました。

＜第2回：9月19日＞ 関係者ヒアリング

宮城県、(一社)JEAN、花王(株)、(一社)日本自動車工業会、日本バイオプラスチック協会、(株)カネカ、日本製紙(株)のヒアリングが行われました。特に花王(株)のヒアリングでは、容器がプラから紙へ、液体洗剤から固形洗剤に戻る可能性や詰め替え容器の状況等について、質問が出ました。

＜第3回：10月19日＞ 論点整理、中間とりまとめに向けた議論 —今後の戦略展開・数値目標—

冒頭、原田義昭環境大臣よりご挨拶があり、富安新室長よりプラスチック資源循環戦略（素案）の説明がありました。数値目標に係わる部分は下記の通りです。

（リデュース）

- ・2030年までに、ワンウェイのプラスチック（容器包装等）を累積で25%排出抑制を目指す。

（リユース・リサイクル）

- ・2025年までに、プラスチック製容器包装・製品のデザインを、技術的に分別容易かつリユース可能又はリサイクル可能なものとすることを目指す（難しい場合、熱回収可能性を確実に担保）。
- ・2030年までに、プラスチック製容器包装の6割をリサイクル又はリユースしかつ2035年までにすべての使用済プラスチックを熱回収も含め100%有効利用するよう目指す。

（再生利用・バイオマスプラスチック）

- ・2030年までに、プラスチックの再生利用を倍増するよう目指す。
- ・2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万トン）導入するよう目指す。

※数値目標等、野心的な目標に賛同と懸念の意見が委員より表明されました。

※次回は11月中旬の予定。

【添付資料】

- ・資料1：再商品化義務量に用いる算定係数（平成31年度）試算
- ・資料2：日本容器包装リサイクル協会「平成30年度第2回紙容器事業委員会」資料
- ・資料3：日本容器包装リサイクル協会「平成30年度第2回総務企画委員会」資料
- ・資料4：中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環戦略小委員会（第3回）資料